

特別展

国宝・彦根城築城四一〇年祭関連事業

2017年NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」特別展

戦国！井伊直虎から直政へ

10/21(土)
11/28(火)



滋賀県指定有形文化財

朱漆塗仏二枚胴具足

本館蔵

軍装を赤で統一した「井伊の赤備え」の甲冑。井伊直政が関ヶ原の戦い（一六〇〇年）で着用したものと伝えます。この甲冑の鉄板は厚く、重量は二十七キロを超えています。腕を動かしやすくするため、袖と籠手とが一体化した毘沙門籠手を採り入れるな

ど、機能性を重視した実戦向きの甲冑です。

関ヶ原の戦いで生涯最大の武功を挙げた直政は、徳川家康より佐和山城と十八万石の領地を拝領しました。直政の活躍により近江国に領地を得た井伊家は、以後彦根を拠点に幕末まで繁栄していくこととなります。

展覧会 情報

テーマ展

雅な遊び

9月8日
10月11日

特別展

戦国！井伊直虎から直政へ

10月21日
11月28日

テーマ展

麗しの雅楽器

12月8日
1月8日

おんな城主
直虎

金亀玉鶴



直亮コレクションの 充実を支えた人々

昨秋、井伊家十二代直亮（一七九四～一八五〇）のコレクションを紹介する展覧会を開催しました。彼のコレクションは、雅楽器をはじめとして刀剣、甲冑、弓等の武器武具、更紗、書画、典籍、文房具、茶道具、博物学関係の資料、そして、時計、オルゴール、測量器等の南蛮渡来品等々、極めて多岐にわたる膨大なものでした。

鎌倉時代末の制作で、現在、東京国立博物館が所蔵している国宝「太刀 銘備前国長船住景光 元亨二年五月日（号小龍景光）」もまた、一時期、直亮のもとにあったものです。井伊家伝来および直亮が収集した刀剣類を網羅し、直亮の手に置いていた道具帳「腰物槍長刀類拵書帳」（彦根藩井伊家文書）には、彼自身の筆跡で入手の経緯が書き留められています。

それによると、代官中村八太夫が所持していたものを山田朝右衛門が入手して直亮のもとに持ち込まれ、朝右衛門の孫を藩士として召し抱えることと引き換えに受納したとあります。山田朝（浅）右衛門家は代々、將軍御用もつとめた試刀

家であり、目利きも行っていた家です。

井伊家家臣の由緒を記した「侍中由緒帳」（彦根藩井伊家文書 以下「由緒帳」）には、果たして、弘化四年（一八四七）、朝右衛門の孫の三輪徳蔵が三十人扶持で召し抱えられた記事が確認できます。しかし、直亮が没した翌年の嘉永四年（一八五二）、徳蔵は、次代の藩主直弼の意向で暇をもらい、同時にこの名刀も山田家に返却されることとなりました。

召し抱えに先立つ天保三年（一八三二）、直亮は、「山田」なる者に刀剣の一部を鑑定させており（「腰物槍長刀類拵書帳」、既に朝右衛門との関係はあったものと考えられます）。

直亮が新たに人を召し抱えることによつて、そのコレクションを充実させた例はほかにもあります。その一人が高師文吾（高斎）で、素性はよく分かりませんが、博識で江戸の古物商にかなり顔がきく人物らしく、直亮のコレクションの収集にあたっては、この高師が関わっていた件がしばしば見受けられます。

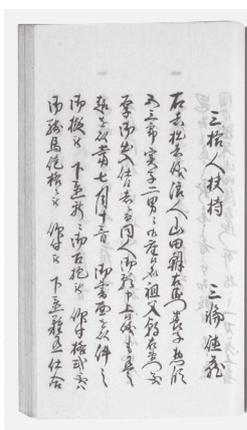
「由緒帳」によれば高師は、弘化二年（一八四五）、騎馬徒格として新規に七人扶持で召し抱えられ、嘉永四年三月に病氣のために隠居、家族存命中は三人扶持を得ています。直亮が没した翌年に役を退くという点は、三輪徳蔵と一致しています。高師は、直亮に関わる御用が主だったと見られることを鑑みると、病が事実であったかは定かではなく、実質的には

一代限りの召し抱えであったと考えるのが自然でしょう。

江戸の絵師の佐竹永海（一八〇三～七四）は、天保九年（一八三八）に彦根藩の御用絵師として召し抱えられました。当時関東画壇を席卷していた谷文晁に対し、直亮自身が絵師の紹介を願って、弟子の永海が推挙されたといえます（「佐竹永海伝」）。永海の御用絵師としての仕事は、御殿の障壁画制作等の公的なものだけでなく、直亮の借用品の写しの作成、所蔵品の鑑定、絵画作品の斡旋、コレクション品の収納箱の文様の下絵制作等、直亮のコレクション収集に関わる私的な御用を種々つとめています。永海の場合は、直弼、直憲と、三代にわたつて御用をつとめました。

このように、直亮は、各方面のその筋の者を身近に置いてコレクションを充実させていったのです。直亮の意思で召し抱えられたとみられるこれら人物の役割や活動を具体的に見ていくことにより、彼のコレクション形成の意図や過程がより明らかになっていくことでしょう。

（高木文恵）



「侍中由緒帳」より三輪徳蔵の記事

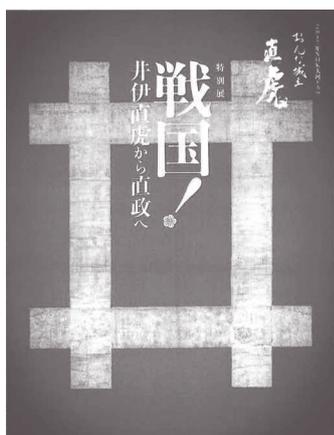
特別展図録

特別展「戦国！井伊直虎から直政へ」の図録を販売します。井伊直虎ゆかりの品や貴重な史料を、豊富な図版と解説で紹介する図録です。

※特別展巡回三会場（江戸東京博物館・静岡県立美術館・彦根城博物館）共通図録です。

■価格…2200円

■当館での販売開始日 10月21日（土）





スケジュール 9月～12月

12月	11月	10月	9月
25月～31日 休館 9土 ギョウリトウ 麗しの雅楽器 1金～7木 休館	29水・30木 休館 28土 シンボジウム 特別展関連事業 21土 ギョウリトウ 戦国！井伊直虎から直政へ	12木～20金 休館 16土 数書 古文書のみかたの 9土 ギョウリトウ 雅な遊び 2土 能・楽音 第51回彦根城能	
テーマ展 麗しの雅楽器 12/8～1/8	特別展 2017年NHK大河ドラマ 「おんな城主 直虎」特別展 戦国！井伊直虎から直政へ 10/21～11/28 常設展示 “ほんもの” との出会い	テーマ展 雅な遊び 9/8～10/11 9/6・7 展示替により一部休室	

*「古文書のみかた」は事前申込制です。

催し

◎特別展「戦国！井伊直虎から直政へ」関連事業◎

井伊直虎・直政に着目したシンポジウムを開催します。謎が多くこれまであまり知られてこなかった直虎に加え、戦国時代の井伊氏、井伊谷地域について紹介します。また、直虎に養育された直政が、徳川家康の天下統一を助け、近江国に彦根藩井伊家を創設する歴史についても紹介します。最後に、遠江・近江それぞれの視点から、井伊家苦闘と繁栄の歴史について、対談を行います。

シンポジウム「井伊直虎から直政へ」

～遠江・近江の視点から～

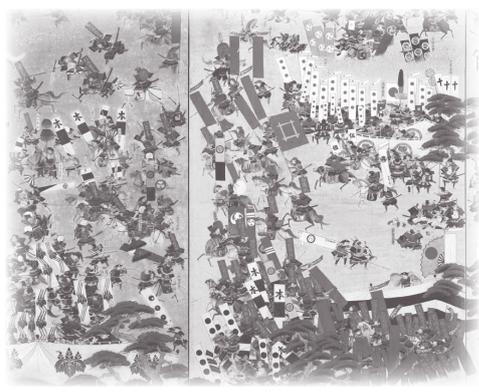
- 日時 10月28日(土) 13時30分～15時50分
- 会場 当館能舞台正面見所
- 内容・講師 内容・講師
- 報告1 「遠江国の戦国と井伊直虎」 久野正博氏(浜松市博物館学芸員)
- 報告2 「徳川家康の天下統一と井伊直政」 青木俊郎(当館学芸員)

対談

「遠江から近江へ 井伊家の軌跡」
久野氏・青木



井伊直政像(部分)



関ヶ原合戦図(部分)

- 定員 1200名
- 受講料 300円 (展示の観覧には別途観覧料が必要)
- 申込 事前申し込み
- ※応募者多数の場合は抽選し、抽選結果は10月6日(金)以降にお知らせします。
- 申込期間 9月1日(金)～9月29日(金)
- 申込方法 往復はがき、または彦根城博物館ホームページのいずれか。
- ※往復はがきによる申し込みは、往信の裏面に住所・氏名・電話番号を、復信の宛名面に住所・氏名を明記のうえ、「特別展シンポジウム係」までお申し込みください。(当日消印有効)。



彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行

彦根城博物館

〒522-0061

滋賀県彦根市金亀町1番1号

TEL 0749(22)6100

FAX 0749(22)6520

http://hikone-castle-museum.jp/



この印刷物は8000部作成し、印刷単価は7円です。